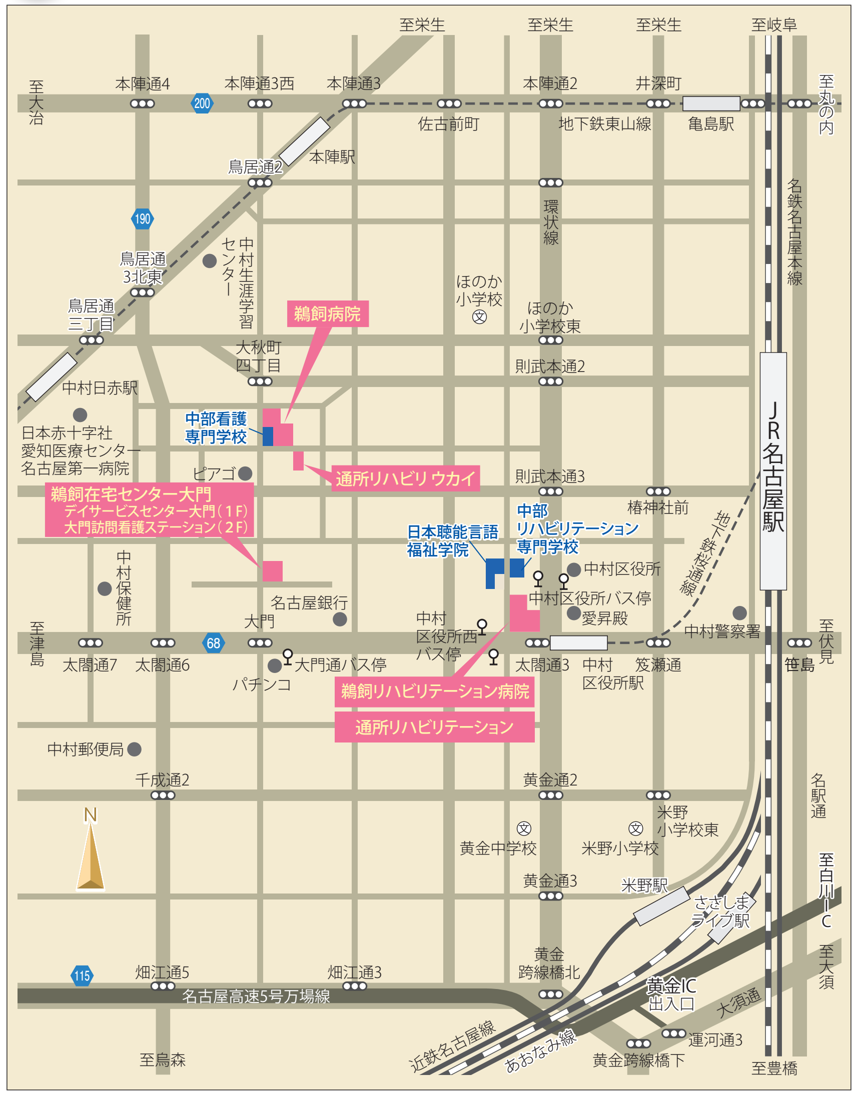
ご案内図



交通アクセスのご案内

- ■ 地下鉄／桜通線「中村区役所」①出口より……… 徒歩約 1分
- ■ 市バス･名鉄バス／「中村区役所」下車……… 徒歩約 1分
- ■ JR名古屋駅太閤通口より……… 車で約 5分
- ■ 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……… 車で約 5分

主たる機能 リハビリテーション病院 ☆☆☆☆☆（認定5回目）

高度・専門機能 リハビリテーション（回復期）

医療機能評価認定病院です

（財）日本医療機能評価機構により、医療機関（療養）・リハビリテーション機能（回復期）としての基準を達成しているとの認定をいただきました。

医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4 - 1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ http://www.ukaireha.kzan.jp/

時代のニーズに応える珪山会グループ

鵜 飼 病 院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4 - 1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4 - 1

通所リハビリ ウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6 - 1

デイサービスセンター大門
（鵜飼在宅センター大門1階）
TEL 052-461-3204
FAX 052-461-3214
名古屋市中村区賑町26

大門訪問看護ステーション
（鵜飼在宅センター大門2階）
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区賑町26

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2 - 2
http://www.chureha.kzan.jp/

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
http://kango.kzan.jp/

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2 -14
http://ncg.kzan.jp/

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌 ReHappy! Vol.82

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy! Vol.82

リハッピー

発行人／鵜飼泰光
発　行／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4 - 1
http://www.ukaireha.kzan.jp/
編　集／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発　行／令和5年1月1日

〈特集〉

なくしていた意欲を引き出し、患者さん主体のリハビリテーションへ。

医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

特集

なくしていた意欲を引き出し、患者さん主体のリハビリテーションへ。

医療法人珪山会グループの理念である
〈患者さん第一主義〉をテーマに展開する、特集シリーズ。
第3回は、「患者さんの参加意欲」に焦点をあててレポートする。
そもそもリハビリテーションは、
患者さんの参加があって初めて成り立つ医療である。
〈患者さん第一主義〉の考え方のもと、
患者さんのやる気を高めるために、
スタッフたちはどのように患者さんに寄り添い、
気力を引き出しているのか。そのケーススタディを紹介したい。

医師　今井幸恵

脳梗塞で右側の麻痺が残る患者さんの奮闘記。

令和4年初秋、鵜飼リハビリテーション病院の6階リハビリテーション室を訪ねると、一人で黙々とエルゴメーター（トレーニングバイク）をこいでいる患者さん（Oさん・70代男性）の姿があった。「Oさん、今日も頑張っていますね」「もうすぐ退院ですよね。自主訓練の成果ですね」。そんなセラピストたちの声かけに、Oさんはにこやかな笑顔で応えた。Oさんはセラピストによるマンツーマンのリハビリテーションに加え、1日2回はリハビリテーション室を訪れ、自主訓練に励んでいた。ここで顔見知りになった患者さんにも気さくに声をかけるので、他の入院患者さんにも元気を届ける存在になっていた。

Oさんが鵜飼リハビリテーション病院に転院してきたのは、約2カ月前。ある日突然、脳梗塞で倒れて、急性期病院へ。早期発見と治療で一命を取り留めたものの、右半身に中等度の麻痺の障害が残った。また、入院中に、右膝の関節が腫れて激痛におそわれる痛風を発症。痛み止めの薬を飲みながら、療養する日々が続いていた。入院直後のOさんに面談して評価した主治医の今井幸恵は、次のように振り返る。「右足に関しては動きにくさはあるものの、リハビリテーションを行えば、補助具なしで歩けるようになり、歩いて自宅に帰っていただけると予測しました。麻痺が残る右上肢についても、時間をかければ手指を1本ずつ動かすこともできたので、訓練すれば利き手として使えるようになると評価しました」。

Oさんの希望は、2カ月程度で退院して自宅に戻り、早く復職すること。病気になる前は、経営するスポーツショップの店頭に妻と一緒に立っていたので、妻の負担を減らすためにも、一日も早く復帰したいという希望を持っていた。

今井は、身体の状態からすれば、その希望もおそらく実現できると考えた。だが、実際のリハビリテーションは思ったようにうまく進まなかった。Oさん自身がリハビリテーションへのやる気を見出せなかったからだ。

リハビリテーションへの意欲が湧かない。

Oさんの気持ちに最初に気づいたのは、主に右手のリハビリテーションを担当した作業療法士の森川祐貴だった。「右手の動きをよくする方法についていろいろお話ししたのですが、どうも意欲が湧かない様子でした。〈仕事でどんな動作が必要か聞かせてください、それに向けてメニューを作りますから〉と話をしても、業務内容をあまり詳しく教えてくださいませんでした」。リハビリテーションは、患者さんの参加があって初めて成り立つもの。どうすればモチベーションを引き出せるのか、森川は思い悩んでしまった。

作業療法士　森川祐貴

その悩みを初回のチームカンファレンスで伝え、チームメンバーが意見を出し合った。「体が思うように動かず落ち込んでいるのではないか」「右手が使えるようになってやりたいことを、具体的にイメージできないのかもしれない」「復職への熱意は持っておられるので、仕事についてもう少し深く話をしてみてはどうだろうか」——さまざまな意見を踏まえ、森川はOさんに心を開いてもらうためにも、まずは仕事内容について深掘りすることにした。「スポーツショップにはいろんなお客さまがいらっしゃるんでしょうね。日頃、どんなことを大事にして、接客していらっしゃるんですか」。この質問に、Oさんはぽつぽつと本音を話し始めた。接客では、高い商品を売りつけるのではなく、お客さまに本当に合った商品をすすめること。お客さまが楽しんでスポーツするのが一番の願いであること、お客さまの幸せが自分の喜びであることなど。その言葉の端々には、商売人としての良心や誇りがあふれていた。「なるほど、お客さまを本当に大切にしていらっしゃるんですね。接客の時間をしっかり確保するためにも、会計や梱包などの作業はスマートにこなしたいですね。右手が使えるように訓練しませんか」。そんな森川の提案は、Oさんの心をようやく動かした。右手の動きを改善させる目標が具体的にイメージでき、そこに向けて「練習してみよう」というやる気が湧いたのである。

ゴルフのスイングでバランス感覚を思い出す。

右足を中心に運動機能のリハビリテーションを担当したのは、理学療法士の小倉峻だった。右手と同じように、右足の訓練についても、Oさんは最初、やる気が全く見られなかった。「いろいろお話しするなかで、ゴルフがプロ並みの腕前であることがわかり、退院してゴルフをするためにもまずは歩けるようにならなくてはならないですよね、とアドバイスしました」。そんなところから少しずつ歩行訓練に誘導していったが、やる気に火をつけたのは、

ゴルフクラブを用いたトレーニングだった。「ご本人の意向もあり、おうちからゴルフクラブを持ってきていただき、ゴルフのスイングをしてバランス力を鍛える練習をしました。何度か繰り返すうちに、具体的にゴルフをするイメージが湧いたのでしょうね。しばらくすると、〈どんな運動をしたら、もっと動けるようになる？〉と、逆に質問していただくほど積極的になられました」。ゴルフを切り口に訓練することで、Oさんは冒頭で紹介したように、リハビリテーション室でも自主訓練に励むようになった。「ゴルフコースでもう一度プレイしたい」。そんな思いが、Oさんのモチベーションを一気に高めたのである。

理学療法士　小倉　崚

　こうしてOさんは最初の目標通り、約2カ月間のリハビリテーションを完了。歩きづらさはやや残るものの、安全に歩けるようになり、右手もお箸を持って食事ができるほどに改善し、無事に退院の日を迎えた。退院後は自宅に近い病院でリハビリテーションを続け、復職と趣味のゴルフという目標を両方ともめざしていく予定だという。

参加意欲を引き出すことが〈患者さん第一主義〉の第一歩。

　Oさんの事例を通じて見えてくることは、リハビリテーションは患者さん本人が主体的に参加して初めて成り立つということだ。しかし、病気で落ち込んだ患者さんの意欲を引き出すのは、それほど容易いことではない。そのためにスタッフはどんな努力をしているだろうか。森川は「やはりその人が何を大切にして生きているかを理解することですね。Oさんはスポーツショップの経営という仕事に誇りを持っていることがわかり、モチベーションに繋げることができました」と言う。小倉も「患者さんの生き方や思いを深く理解することが大切だと思います」と話す。「初対面で心を開いていただくのはむずかしいので、話を聞くだけでなく、自分のこともざっくばらんにお話ししながら、お互いに理解が深まるよう心がけています」。

　2人の意見に、今井もうなずく。「表面的な会話ではなく、患者さんとの対話をいかに深めるかというところは、私たちがいつも気をつけていることであり、〈患者さん第一主義〉の基本だと考えています。そのためにカンファレンスにしっかり時間をかけて、患者さんがどんな生き方をしていらっしゃるか、仕事や趣味にどんな喜びを見出していらっしゃるか、情報を共有するようにしています。Oさんの場合も、最初の1～2週間はリハビリテーションが進まず気を揉みました。でも、チームのメンバーが仕事や趣味に深く切り込むことで、退院後のゴールを設定し、意欲を引き出すことができました」。患者さんの根底にある思いを把握し、参加意欲を引き出す大切さ。今井たちはこれからも〈患者さん第一主義〉のもと、患者さん一人ひとりの思いに寄り添い、リハビリテーションの成果を上げていく方針である。

For the Best Rehabilitation

Topic 1
オーダーメイドのトレーニングメニューを作成。

　〈患者さん第一主義〉を実践するために、患者さん一人ひとりの希望や課題、症状に合わせたリハビリテーションが必要不可欠である。そのため、鵜飼リハビリテーション病院では、患者さんの生き方や根底にある思いをしっかり把握し、それぞれにふさわしいトレーニングメニューをオーダーメイドで組み立てている。

　たとえば、特集で紹介したOさんの場合、理学療法では趣味のゴルフを活かしたメニューを構成。ゴルフクラブをスイングして、体のバランス力を鍛える練習、平坦ではないゴルフコースを歩くことを想定した歩行訓練などを行った。作業療法では、スポーツショップ経営を想定したトレーニングを中心に行った。たとえば、お店のブログを再開するためのパソコンワーク、右手で伝票をスマートに書く練習、お店の高い棚に手を伸ばす練習など。この他、趣味のゴルフボールを用いた、右手指の訓練なども取り入れた。こうした実生活を想定した訓練について、森川は次のように話す。「手は不思議なもので、機能を上げるだけでは、使えるようになりません。実際に触るものの形や大きさ、素材によって手の動きも変わるので、患者さんの実生活に合わせた、オーダーメイドの訓練メニューをとても重視しています」。

Topic 2
地域連携で、退院後のリハビリテーションをサポート。

　鵜飼リハビリテーション病院では、入院中だけでなく、退院後のリハビリテーションについても積極的に支援している。具体的には、法人内の連携を駆使して、外来や訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなどを提供し、能力の維持・回復をサポートしている。

　また、地域連携により、法人外の施設での継続リハビリテーションも積極的にサポート。医療ソーシャルワーカーが入院間もない段階から、患者さんの意向を把握し、地域の病院・施設への橋渡しに力を注いでいる。特集ページで紹介したOさんについては、医療ソーシャルワーカーの松延美緒が担当した。「ご自宅の近くに通いたいというご意向でしたので、地域でリハビリテーションを行っている病院や施設を調べて、条件に見合うところをピックアップしていきました。ご自宅に近く、頻回に通えるところ、車の運転がしたいというご希望を踏まえ、運転操作の訓練ができるドライブシミュレーターを備えたところなど、最終的には2つの病院をご紹介し、選んでいただきました」と話す。リハビリテーションは、決して入院中だけで終わるものではない。鵜飼リハビリテーション病院では退院後の回復や機能の維持までを見据え、切れ目のないリハビリテーションを支援している。

珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜 飼 病 院

地域に密着した病院として、患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。

施 設 概 要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科
病 床 数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）
外来受付時間
月～金曜日　9:00～12:00 / 15:30～18:00
土　曜　日　9:00～12:00
休　診　日　日・祝
※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせ、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っての運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施 設 概 要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対　　象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木、火・金、水・土
（祝祭日を含む）
ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後13:00～14:30 / 14:30～16:00
サービス内容
○筋力増強訓練や関節運動など
○食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
○住宅環境の整備
○ホームプログラムの指導　など
※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。

施 設 概 要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対　　象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日
（祝祭日、年末年始を除く）
ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後13:30～17:00
サービス内容
○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
○健康状態の確認（メディカルチェック）　など
※食事・入浴サービスはありません。
※3～4時間型は送迎があります。

デイサービスセンター大門（鵜飼在宅センター大門1階）

今の生活を末永く維持するための効果的な予防サービスを提供します。

健康と要介護状態の中間に位置づけられるフレイル（虚弱）状態の改善をめざす専門のトレーニング施設です。

介護保険に加え、自治体が運営する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の方が対象となります。

当センターでは、サービス利用にあたり必要な介護保険や総合事業への申請の援助を行います。フレイルの改善したい症状に応じたプログラムをご提案するだけでなく、主体的な健康づくりの習慣づくりに向けた健康講座なども行います。また、PT・OTが常駐して個々の能力や疾病に合わせてアドバイスを行います。

施 設 概 要

健康維持・介護予防をはかりたい方を対象に1~3時間程度の 集団プログラムをご提供します。

対　　象：要介護・要支援認定の方、
名古屋市の総合事業対象の方
ご利用日：月～金曜日
（祝祭日、年末年始を除く）
ご利用時間：午前 9:00～12:10
午後13:00～16:10
サービス内容
○介護保険総合事業申請のお手伝い
○集団トレーニングメニュー
・基礎体力づくり　・歩行支援　・コグニサイズ
・シニアヨガ　・音楽療法　など
※食事・入浴サービスはありません。

大門訪問看護ステーション（鵜飼在宅センター大門２階）

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろう」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週１～２回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。

施 設 概 要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日　9:00～18:00
（祝祭日、年末年始を除く）
サービス提供地域：中村区・西区（一部）・中川区（一部）
サービス内容
○健康状態・病状観察
○日常生活の支援
○医療処置・カテーテル管理支援
○在宅リハビリテーション
○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談　など
※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。